

飼料用トウモロコシの害虫「ツマジロクサヨトウ」の対策について

ツマジロクサヨトウは、南北アメリカ原産の農業害虫で、トウモロコシ、ソルガム等 80種類以上の作物に被害を与えること、1世代で 500 km 移動するなど長距離飛翔することが知られています。日本では、2019 年に初めて九州で見つかり、本県でも猛暑の影響で 2023～2025 年にかけて急激に生息拡大しています。この害虫は、日本では越冬できないため、毎年中国南部から飛来し、夏季を中心に増殖して被害が出ます。

県内では、この夏の記録的な猛暑の影響もあり、7 月以降に播種した飼料用トウモロコシで大きな被害が出ました。この害虫は若いトウモロコシ株に好んで産卵し、幼虫が成長点の中心部に潜んで、柔らかい新葉を食害します（写真）。このため、株が枯れてしまうこともあります、再成長しても本来の茎葉長より短くなってしまいます。

この害虫用の農薬としてルミビア F S があります。塗抹処理タイプの薬剤でトウモロコシ種子を農薬コーティングし、播種をすることで 3 週間程度殺虫効果が持続します。

当所では、この農薬の展示ほを設置しましたので結果をお知らせします。食害の程度を 5 段階で評点し、播種後 1 カ月、1 カ月半、2 カ月で調査を実施しました（表）。

調査の結果、農薬処理区の方が評点が低いこと、10 月 24 日時点の茎葉長が約 30 cm 高いことから、農薬の効果を確認することができました。

塗抹処理の使用量は 1000 粒当たり 1.5～2.5 mL で、農薬の費用は 7,000 粒/10 a を播種する想定では、10 a 当たり約 1,200～2,000 円となります。なお、展示ほでは 2.5 mL 量を使用しています。また、キヒゲンと併用する場合は、初めにルミビア F S をコーティングして乾燥した後にキヒゲンでコーティング処理をしてください。



表 食害発生状況

（平均 ± 標準偏差）

区分	播種日	調査日		
		9月19日	10月7日	10月24日
農薬処理区	8月20日	0.98 ± 1.00	1.62 ± 0.88	1.40 ± 0.76
無処理区	8月23日	2.28 ± 0.88	2.06 ± 0.68	1.90 ± 0.51
被害の評価方法		評点 1：食害がわずかにみられる。 評点 3：成長点に食害がある。 評点 5：成長点の葉がなくなる。		